



水石記

第廿三  
卷上郡  
第廿三  
卷上郡

特別  
Ⅷ4  
3979  
9





門 凡 4  
3979  
9



和別舊跡函考

第十二卷葛上郡

葛城

葛城山

付 飛龍 ○ 麟角 ○ 四足鶏事

金剛山

付 法起菩薩 ○ 七大童子 ○ 用山堂

一言主神社

付 神階夏 ○ 高天山 付 高天寺夏

高天彦神

白鳥陵

付 白鳥飼奉 ○ 化鹿出夏

琴弾山

高是宮

高宮廟

葛城寺 付 弥勒夏



昭和二十七年  
三月十八日  
購



室秋津嶋宮

玉手丘上陵

掖上池心宮

掖上囃間岳

捨篠社

巨勢山

とあまごり系

千葉屋城

穴師社

第十三卷城上郡

掖上池

茅原村

孝昭天皇陵

雲櫛社

御年神社付おん年の神階かみ夏

巨勢川

菅原伏見

延喜式神名帳

崇神天皇陵

景行天皇陵

田村皇女墓

忍坂山

釜口寺

痛足山

緒環墓

珠城山

卷向川

纏向日代宮

豊受氣大明神御鎮座地

舒明天皇陵

大伴皇女墓

鏡女王墓

痛背川

箸墓

纏向珠城宮

纏向山

檜原



三輪山

神山

神辺山

志の杖

杖社

大御輪寺

付 神足跡事

玄敏谷

三輪崎

磯城嶋金刺宮

磯城鴻

神岳山

三垣山

三輪川

三輪神社

三輪若宮

天照大神御鎮座地

海板板市

佐野坂

磯城瑞籬宮

磯城鴻高圓

泊瀬山

本糸宮

泊瀬川

菅山

石村山

長谷寺

付 観音○石座事 ○登廊○炎上事

護法善神

山口神社

別院長勝寺

安親院

泊瀬

紅糸里

右川野曲 付 二本杖事

弓月嵩

白山権現

与喜山天神社 付 炎上事

蓮花院

藤井坊



道明上人廟 たうめい かのう

泊瀬朝倉宮 えせ ちやうくら

泊瀬列城宮 えせ けいちやう

泊瀬齋宮 えせ さいみや

迹鷲淵 いせ じゆえん

泊瀬小野 えせ せの

伊豆加志本付 天照太神宮御鎮座奉 いづ かしもと たいあつ たいしんみや ぎんげんざ ほう

狹井神社 さかいの じんじや

笠山 かさやま

竹林寺付 荒神奉 たけのこ じや ぼう くらがみ ほう

延喜式神名帳 えんぎしき しんなちやう

和列舊跡函考卷第十二葛上郡

葛城

葛城の神武天皇二年高尾張邑 かつらぎの じんぶ たいてう ねん たかおの ちやう 旧 高尾 紀 高尾 邑

よ出物あり身短く手足のぶくして兵勇い よ だつぶつ あり み せうかく して びやうい

さあがり官軍ははるの細として終に殺し多 さあがり かんぐん ははる の せう として しまいに ころし ちやう

是より葛城の石あり こゝより かつらぎの いし あり 日本 紀

葛城山

金剛山同山異名 こんがう さん どうさん いな

ま柳のうらた山より雲はきてをわたりて思ふ人 まやなぎ の うらた やま より ぐも は きて を わた して おもふ ひと

川に流るる かみに ながるる

葛城や友のまき入りて かつらぎ や とも の まき 入りて

ゆかりとん葛城山の影の月照る ゆかり とん かつらぎ やま の かげ の づき てる

中集 ちゆうしふ



▲天明天皇元年六月訪よりて盧室とけりこれ  
あり親唐人よ似て喜死あやうきなり蓋其より  
けりき乃嶽よりあて生駒山よ池行平の時よは  
作老の松の麓より西に向ひて地よりあり 日本

▲天武天皇九年二月葛城山よ麟角あり角の  
もとハ二枝ありて未合て完あり完の上よ毛生  
りり毛乃毛さ一寸刻是となりけり 日本

御宇白鳳十三年葛城山よ四足の鷄阿利 日本  
金剛山 やゆと河内院の院あり

金剛山ハ天瓊矛乃所記より偏潮よりて磯敷盧  
鴻とありけり 又ハ別金剛山あり  
若ハ金剛峯又ハ縛曰羅獨承又ハ一葉峯 又ハ神祇室山又ハ大日本

所化より

葛城山

花嚴經曰東如海中有一處名金剛山從昔已來  
諸菩薩衆於中止住現有菩薩衆曰法起与  
其眷屬諸菩薩衆千二百人俱常其中而演

說法云是大和國の金剛山あり 正統

▲本堂ハ法起菩薩不動明王藏王指現乃三尊後

小角ハ刻之 正統

童子よ供物とそそ人高心強と云ふところあり

後約者自能涌現の十又童子とけて八大金剛童

子ハ大峯よ祠一七六童子ハ三三三と云ふ

也先中一護童子ハ一葉嶽又中二福集童子ハ

大福山又中三常行童子ハ金剛山又中四集飯童子

ハ二上の岩屋又中五宿着童子ハ紅宿又中六



童子ハ般若藏又才七羅網童子ハ釈迦留岳よふ  
氏まり後ふとあり西抄

▲開山堂彼行者の遺像あり六月七日は法事  
と決し一それ目護摩堂よ柴燈の護摩あり遊行  
者乃傳ハ新野郡の大塚乃所よあり又本堂  
より漸くうらぐ坂中よ朝原寺石寺あり

一言主神

葛本堂一言主神社延喜一言主神ハ孔雀明王と

一統よ大穴六道子味鉏高彦根本記雄略天

皇四年天皇うらぐ山よ狩し後時一言主神あり  
天皇と云々よ葛とあり響代ありてかりし後

日本紀 天皇大腹給て神と云云因よりけり

その後天平寶字八年從五位上高賀原朝臣等  
奏りて葛城山の東下高官思上よむて鉏むる

本紀 土佐國よりけり給ふ義ハ信用せりり  
説傳れども既續日本紀よその統とありし世利

▲神階ハ貞觀元年正月廿七日葛城一言主神從  
二位よ叙せりり三代

後百八集 藤原氏の神乃宮二ふありけり  
天本集 進奉成りりや人と契りりて一言主の孫とせける

高天山 付高天寺

金剛山の麓あり又石見國の周府あり  
高天のつらつらの物湯妙朝と稱りて宿を梅とて  
名虎若生りて跡ありしれけり人のけり



神祇を利 駿号代経つりて 神祇と云ふなり 和日 本紀

葛城乃高天原野平去りて之を所内神といふ 和日 本紀

高天原神

仁明天皇 養和六年 大和國葛上郡 從三位 高天原

神祇 右神 續日本 後紀

白鳥陵

或人曰葛城乃根より白鳥の神ありながら村の際

一言の神ハその上よりあり 兵庫村の西

日本武尊 東夷神なりがてより 給ひり 伴給

能摩野 延喜式 日 鈴鹿郡 ありて 葛城より 給ひり 大和

鹿野 陵より 蘇我より 一 時 白鳥を他 一 大和

志く 死給ひり 六 群 臣 指 給ひり 給ひり 大和

兵 明 衣 乃 あり 又 白鳥 大和 志 琴 彈 あり 大和

内とせ給ひり 六 六 陵 城 流 あり 更 白鳥 部

て 河内 西 舊 市 邑 あり 内 給ひり 陵 城 流

りて 白鳥 乃 三 陵 あり 神 あり 天 あり

給ひり 六 衣 冠 神 あり 日本 内 あり 祝

あり 高 皇 紀 六 尾 張 あり 大 平 紀 六 尾 張

あり 飛 龍 給ひり あり 白鳥 乃 あり 威 威

記 あり 高 皇 紀 六 尾 張 白鳥 明 神 あり 願 給ひり あり

一 伴 天 皇 日本 武 尊 乃 弟 二 乃 由 子 あり 内

一 死 父 王 白鳥 と 化 あり 給ひ 朕 志 あり あり

や 心 耐 あり 一 只 白鳥 乃 陵 あり 池 あり あり

ま 給ひ 見 け あり あり あり あり あり あり

あり 白鳥 乃 あり あり あり あり あり あり

仁 德 天 皇 十 年 十 月 小 白 鳥 陵 あり あり







室秋津嶋宮

古事紀曰葛城室秋津天皇五編年曰葛城上郡今換上池上池南田中より今の室村その後より寺村より乾りて川の東

人皇六代孝安天皇二年十月都城室地より流さきく秋津嶋の文と名は給ひ記日本又葛城文とも云ふ古史

換上池

推古天皇二十一年この池成りてと云利日本

玉手丘上陵

聖子村この西より室村より乾りて川の東

孝安天皇の玉手丘上陵は大和必葛上郡より

延喜御宇百二十年正月は御宇より給ひ記日本

茅原村

聖子村の乾りて川の東

茅原村は後小角の誕生地より今くは新野郡よありて

換上池心宮

村危り今の池所村より茅原の南より川乃西帝王編年曰葛上郡在事紀曰葛城

換上宮

人皇六代孝安天皇元年都城換上より流りて池心文と名は給ひ給ひ記日本

孝安天皇陵

孝安天皇の換上博多山と陵は大和國葛上郡あり延喜御宇八十三年八月は御宇より給ひて



孝安天皇廿八年八月よりの山陵より一尊紀  
應上嶽間岳

神武天皇廿一年四月天皇應上嶽間岳の山を  
給ひて玉乃杖杖をわがく内本郷の真逆國  
以ても蟻蛉の醫咄のどりと宣しより秋津雲の  
若あり醫ハ尻より咄ハ掌より西ハ額の方東ハ腹  
の方南ハ支那あり

雲梯社ハ倭國葛上郡よりあり下照姫命大己  
杵杵見味鉏高彦根神(舊) 舊夏  
捨原社ハ味鉏高彦根神倭國葛上郡よりあり

舊夏 又大葉刈鉏又ハ神戸鉏ともいふは鉏味鉏高彦  
根の神の帯後ハ鉏よりけ鉏大和國高鴨社  
よ池ねたう 秋日 本紀

御年神の社 所々  
葛木御歲神社 延喜大己貴命御年神あり 一宮  
▲神階貞觀元年正月廿七日從一位なり あり 三代  
實録

巨勢山  
倭名類聚曰高市郡又藤原郡中ハ葛上郡とあり  
巨勢村高市郡の西ハありて高市郡ハ藤原郡也  
大寶元年奉皇秋九月太上天皇奉于巨勢

萬葉集  
巨勢山つづく様はくくよはは 菅原新湯の春社也 坂門  
人足  
新六佐  
廣川之春節の能事ありて人よまを 光徳



巨勢川

薩摩守  
まほろけいしんせいのけいりみちをけいのちのち

とあはるる原

千五百番奇合

約をわしてせし春野は朝比ひとあはるる原よりのち

月清集

菅原伏見 傳。伏見村と云

拾玉集

春夜ををさうりてさるる也伏見よりのち小初瀬山

壬二

初瀬山よりのちあはるる原伏見の原の浦よりのち

伊東十首

小初瀬の山よりのちあはるる原伏見の原の浦よりのち

子葉屋城

子葉屋城東條谷ありて金剛山ありて河内山あり

とあはるる原太平記後太平記よりけいりみち

葛上郡神名帳十七座 延喜

鴨都波八重事代主命神社二座

葛本郷歳神社

葛木坐一言主神社

多太神社

長柄神社

巨勢山に神社

葛木水分神社

鴨山に神社

大穴持神社

葛木大重神社

高天彦神社

大倉比賣神社

高鴨阿波須岐龍彦根命神社四座



和州舊跡考第十二卷終

和州舊跡考第十三卷

城上郡

磯城郡日本紀

城郡倭名類聚

延喜式

式郡大安寺資財帳

元師社

鳥井の大道あり社頭なる其處に立給ふ

元師社天皇乃松天々乃松乃末乃あり乃時後

奇鏡ハ三面ハ鈴一合と御才よとてを給ふ

これ一乃乃鏡ハ天照太神乃御靈とて天

懸神と御名とあり一乃の鏡ハ天照太神

乃前御靈とて團懸神と御名と御才

今紀伊國名草宮ありありやまひ中太神

也一乃乃鏡ありひよみ鈴と天皇御食津の

神朝夕乃御食夜護日護奇在乃人表







撰集鈔通要に此陵ハ添上郡内にて  
つゝとぞおぼし傳ふ

田村皇女墓

田村皇女ハ大和國城上郡舒明天皇陵乃  
内ニ葬る延喜式敏達天皇乃皇女糠子姫皇  
女トモト奉りてり

大伴皇女墓

大伴皇女押坂陵大和國城上郡ニあり延喜式

忍坂山

萬葉集に長谷の山ハ喜徳ノ忍坂山ナリヤおれニ  
海ノき山ノおまれ妙スミニぞあり此山ハ忍坂山ト云  
唐塩手傳國也宗祇法師忍坂山ト云  
志々々

鏡女王墓

鏡女王ハ押坂陵大和國城上郡ニあり延喜式  
此山トりに十市此をいへりお城の跡ト云ひ  
は〜とありあり

釜口寺

寺領百石

元師ノ大道より十又六町ひりゆ石  
集ノ道ハ山寺ト云り

釜口山長岳寺金剛身院弘法大師乃開  
基也出書と云ふ

此寺ハおまゝと云ふなりはまゝなり  
小法師あり此をいへりつゞき  
道ハ〜と云ふなりおまゝなり

阿闍梨



あつて乃世おはあ〜ゆきあり

痛背川

水とは三輪山痛背山ありあつていすのき  
ありなれ未〜はよび

世の中此〜あつていすのき痛背川と云ふ  
痛背山ありあつていすのき  
痛背山ありあつていすのき  
痛背山ありあつていすのき

痛足山

似覚抄大和國〜延喜式は穴作とも  
纏向の痛足山と云わつてぬかれぬ  
纏向の痛足山と云わつてぬかれぬ  
纏向の痛足山と云わつてぬかれぬ

横向のあつと〜又  
二の山残さるあつと〜  
事〜あつと〜  
控山〜あつと〜  
元原山〜あつと〜  
これ何〜あつと〜  
のあつと〜

箸有鼻

大道乃あつと〜  
〜あつと〜

箸有鼻乃〜  
〜あつと〜  
〜あつと〜  
〜あつと〜



































十策をりりて平乃人れとてはて御代新持  
 と思はれり一づある付傳説人ありとて  
 々もわうしげらまの神のほまそてちうまひよ  
 しひゆらにむりて大御備ちれせとてはすまに  
 入定しあ未代は弁持とせんそとてあ板よ  
 由是のたとらうそあそ初今よあうのなり  
 撰集抄 ありとてわすひにそとて

天照大神御鎮座所

け所きて三傷の神乃奥よあり

人會十代崇神天會の御宇五十年大和三年  
 山御宮家上は宮行りて二年はつりなりた  
 子の時を納入帳令わが日足ぬくよきとあは  
 儀比賣命と御枝代と定て天照大神と載  
 たりとてにけまらるるなり 倭姫世紀

玄敏谷

あ世其はつとてあり

玄肩傷都は後心集 姓ハ片削氏何内ふ人なり  
 歌山階寺乃四奉るき智志とんれとせと賦  
 んぬくして更よちれまどらりとのまび三福川の  
 ありに儀らるるなりをむまびてらんありひつ  
 何より桓表帝乃由付ひるきうてわて旅よゆ  
 おくれし道つてわいてなぬわにまひりた  
 たりちまもた本意たひありひまるあや奈良入  
 こころの由せよ大傷都よあはれとてはしりてある  
 後心集 三福川の流れ海よすまそとて神とて又とてとて  
 その後心集よりなるあはれ流ありてあまそと















八重山新日海小島伯洲山ゆしりりませ

山ももろくは洲又長谷 万葉

万葉

陽兵伯洲とよあがよまきりむらぶらぬありいと場 山本

同

隠兵伯洲山ゆしりりませ 山本

同

隠兵の老伯洲たふらぬあけく死通はくくはひめ

同

隠兵長谷小圃は和延馬家天中寸興奥床

同

隠口 隠口 隠口 隠口 先達古訓くはく

同

区なりを甲よわききくはまは洲るりゆい

同

むそれいと似ありこりわは更は相多ははあ

同

こがみらうはにれまきと草あてたきなが

同

かには混じりう所詮此あししはれはより

今も奥少のき故はは電はの初洲とあり

そのと 詞林 株葉 大初洲小初洲とあり 上日

万葉

若の代も大のせ海の百枝擬百枝るがもはまは

同

事之よまふ小初洲山れ若木いもも実た思ふあせれ

同

海小初洲山ゆしりりませ 詞林 近本

同

海小初洲山ゆしりりませ 詞林 近本

清備集

なりのおひくあまみらるるゆしりりませ 詞林 株葉

同

あく所くは初洲海や分を危とれらよまきり 真観

同

のれらひ花梅なりくも物日ひさしりりませ 家隆

同

ゆら若も海いりりり初洲山松原もたむら 同

草根

壺の若や志る人なりり初洲山松原もたむら 同

同

あきしよらひをそてのよひ 同











一頁

あのは本長谷寺と云ふに瀬乃川上の院に推  
現乃社と云ふなりて天人民にり昆州に天あ  
下と云ふ際よりなりて天にのりし時此  
寶塔ありては山より三神の聖神川の流  
よりまのりて表内の宿禰と云ふありて是  
よりよりぎなりて西小乃と云ふに納まりあり  
舊名三神とありてあり伯瀬豊山と云ふ  
三百余衆と云ふ弘福寺と云ふ僧道明僧人  
これと石室と云ふにありてあり里の名よ  
るありて伯瀬と云ふせり天長天皇勅と云  
きりけひの六われ僧人の所と精舎と造宮  
と云ふなり二所は長谷寺又後長谷寺

中も 今の十一面 聖武天皇皇れ勅有りて 徳道

上人 法道也 法入と云ふめて 天牟七し 亥年

九月十六日と棟とて 同十九下亥の

且麻呂道師と云ふと云ふれ 僧等拾

多大僧正 僧徒傷百人 無福寺廿一人元真寺廿八人 大安寺廿八人葉葉師寺法隆寺

これ付乃陽應縁起と云ふなり 徳道上人ハ

膳磨代國指室に於乃人姓ハ幸矢田部名ハ

米麻呂 名 天長天皇 即位は年二月

廿又日おあまより二十又尚寺 發記日神

龜三年十二月晦日大傷都と云ふ

一觀世音菩薩の菩薩と云ふと 徳道上人ハ

徳道公

徳道公

三行







のい... 元正天皇... 御世六年七月...  
前... 事... 元正天皇... 御世六年七月...  
... 女君... 御世六年七月...  
... 佛... 御世六年七月...  
... 天皇... 御世六年七月...  
... 三千束... 御世六年七月...  
... 同六年... 御世六年七月...  
... 大和... 御世六年七月...  
... 本... 御世六年七月...  
... 十一面... 御世六年七月...  
... 二丈六尺... 御世六年七月...  
... 丑亥... 御世六年七月...

與福寺元與寺大安寺  
西大寺法隆寺等十リ 導師... 行基... 禰...  
義... 大德... 行基... 禰...  
廿二... 神龜三年三月... 成... 杖...  
春... 神龜三年三月... 成... 杖...  
月成... 導師... 禰...  
一同石坐... 天平元己巳年八月十五日...  
瑞... あり... のつ... 金剛... 石...  
て... あり... のつ... 金剛... 石...  
像... あり... のつ... 金剛... 石...  
乃... あり... のつ... 金剛... 石...  
あり... あり... のつ... 金剛... 石...  
實... あり... のつ... 金剛... 石...  
と... あり... のつ... 金剛... 石...



一 登皇廟尚寺 駿化 一條院の庄付奈ら春日

乃社司より伝述よりいふものあり 正頼中臣信清男  
三國傳記同之

地眼赤といふ瘡とわづらひりて大患より

心此りつけきほいつはもめりて愈るるこれに

よりて建立せしむるなり

一再真し長谷寺 駿化より頼りて傳りしより長

谷寺の炎上を録しきりて是れ和者なる事

一 皇六十一代 朱雀天皇 天慶七年 正月九日 炎

上大患れ像ありてありてありてせほひりも頂上

佛より出くは後のはれ上よりありはりはりなり

なり 駿記 前在靈夏河り 慈鎮記録

一人皇六十六代 一條院 正暦二年 三月三日 法堂

炎上 觀音堂 法堂なり 駿記

一人皇六十八代 後一條院 万壽二年 正月廿七日

觀音堂 此底乃み火はきりてのほり

に消るなり 駿記

一人皇七十八代 後冷泉院 永承七年 八月廿五日

炎上 頂上 佛乃面ハ梧桐の枝葉中より

せほひり也 駿記 同 十月 造仏乃時 佛面より

中に納る陰料 深より 圓白 尤大長 已下 此

奉和 爲此 料ハ會始 宮内 親王 家法 務大

傷正 乃一 宰附 口れり 天喜 二年 八月 十一日

供養 あり 講師 此勢 大傷 正明 宗咒 於ハ 權少

傷郡 田心 讀師 八撥 少傷 初長 守 慈鎮録

卷之三



仁皇七十三代攝河院喜保元年十一月十三日  
炎上頂上佛乃結了所度の中よりありあ  
まぬ記承徳年中は觀音堂昇座中門扉  
與ありかたもそふかたもあはれし可奈年を  
修く地よ大承元年付春にり慈鎮録

一人皇八十代順徳院建保七年二月十六日  
炎上同佛室承久元年七月十七日あり五月  
廿日また親音の像よりあるも所小佛師八法  
眼杖度号安所号佛号はけり度炭乃中にあり結了  
仏教ま面左右常事るも所推し納まつま  
實坐上よ安運寺の後に仏乃中にいあま  
しり眉るれあ結乃内し招提寺れ舍利一  
粒よめりまそり法阿弥施佛所持舍利慈鎮録

一仁明天皇承和十三年長谷寺定額  
先始の後紀又貞觀十八年長朗法橋上人乃  
奏入りまらよらま下毎に安居し家勝仁は種  
支部と講演し結護國家をいのるべし也  
乃宣方有利三代実録

一長谷寺は觀音菩薩の住居ありあはるゝ  
とりのりてあふ事とあらね又むのりた右近は  
し市はとく免らありあひ又馬奴主人乃妻女とる  
ゆひけらなとわそたまわきり色何らか若伎  
大臣の野馬臺入文をもとるも江後とあ  
書いのせりけるも或たりあはれし

護法菩薩

延元元年三月大和國十市郡古師



阿形といふげんありの二刻をり息絶くは  
きおろりてあはれ顔夫人ありりよの後の  
ひよすして護法吾神とならんとし志のあり  
よるやろとてふひけるもそ鏡接れ東に賜  
乃社とんぬり

### 白山権現

歿記よみ寺の河周梨行田といふありけりか真  
圃白ひりまうてらまうに甲斐國八代郡とす  
まうてきつる男は権現系うつせ給ひてあ伯  
瀬山は銘せせん神祀あり又一鏡あり  
阿と阿周梨乃衣神にけりおれなら大  
禄二年七月一日午に尅なりきまよのたよ  
ゆり同八月三日は社とてうけりなれ  
観音堂ノ西北ノ隅

まを長谷乃とてはた高乃のきり也 三國傳記

### 山口神

長谷乃所の由りあり

歿記曰手乃旗命也延喜式曰長谷山口坐神 三國傳記見祥

### 與喜喜山天神

又三燈の高也といふ

與喜山天神の内鎮座あり朱符院浄宇  
大和國古谷とて神殿大支茂麻呂とて  
一生不犯酒肉又辛と勅しあ寺は信り  
難行と宗とて信ありたり大慶九年九月  
十八日茂麻呂觀音堂に風ありてゆと  
きりよ持衣仕装束入るき人妻りて我は是大威  
強乃神なりといはれり大聖は値遇



一有りぬるの事ハト相合せし事ト云ふ事ハ  
 さるるなりその月北は日あはれなり  
 志げくは信らよ高山大川の下武麻呂の家の  
 に六十計の家依持存世装束よりして屍と  
 びつてありたり是に身一人なりそれなり一町と  
 ありの有りは過るなりありて川ありは地離れ  
 て休むる事多し武麻呂の家よりありてゆり  
 来くる事多しなりけり大詔掲げしものあり  
 信らよ直に小詔をそのわきせの武麻呂道  
 明上人の廟にありて進付三寸と云ふ勅あり  
 それより由堂はまきしてありてや志より念福  
 ありきなり相合せにありて云ふ事なりと云  
 にお目るなり終は云々後家依と云ふ事なり

大正二佐天は天祚菅原某也の山と云ふ  
 志めく大聖に値遇しなり若くは道を行く  
 跡見権現ありてありてありは山と云ふ  
 中よりこの川とは居り居りなりなりなり  
 甲後よりこの山と云ふ地なりなりなりなり  
 曼陀羅山と云ふ事なりなりなりなりなり  
 志らふなり終は二神なりありてありてあり  
 乃びく事なりなりなりなりなりなりなり  
 ありて興喜山乃天祚と云ふ事なりなりなり  
 天曆二年七月武麻呂宝殿と建てて祠を  
 造りて三國傳 天曆二年より延宝七年まで凡  
 七百廿二年なり

一祭礼の儀式は大河の事なりなりなり  
 今也



是後唐に口家の前なり次いで大島の口は  
して居をれ今橋爪 復ハ垢齋とら終ふあり  
通明上人の廟を前めり水倍とを今二王  
是三才とすめなり一なるまはなり  
假社アノ 居をり一東院、中宮、勅額  
て藤原京齊又詔と仁王堂とつし  
立く大神新向の跡をあらひ根板の道を  
ありありて直道をを行今乃堂前是也三國傳通  
天神御腰とけりせ終ふ石し長谷を  
町の東部の北よありて麻呂の家地あり  
新乃民屋よりなれり通明上人の墳又云  
よ三寸となり一なるも二王門の内よ今  
別院長勝寺 當世のちあり

發祀回宇多天皇勅額表福門院の修造あり  
醍醐天皇イハ 春宮イハ わりてせありけり時御  
不縁此は教ありにせり終ふて安平あり  
せ多ひりてハ大觀音像三十三才の像と堂  
造ありあり二本乃根を根とに修造あり  
是也此形をそりせありて建立ありと也三國傳記

蓮華院

當世に願坊の南より蓮華谷といふあり先  
發記曰蓮華谷は此あり二丈一尺ありて中宮  
役小角勅行乃岡伽よむとせり十羅刹女  
のよお現ありありのこありて靈瑞あり  
行休上人の祀あり身とあり又密法相應にて  
會鳳鎮護ありとありて二丈六尺あり



神の四堂とて一乃徳莊嚴の極像とて  
るなり天平十五年三月廿又日は供養に神  
護二年に月六日石川朝長豊成は勅して  
み四堂乃上に三乃は面乃堂とて分りおほせ  
り小社後永云元年九月十日宣下ありて  
蓮華池とてあひきりおむつて夫人おまへり  
て蓮華とてすぎ大也なり竹養口は瑞應に  
まばなりそれなりて聖武天皇は勅せり  
之よりごとく六月十八日一蓮華供養とて  
安養院 當世の所あり  
驗記曰行仁上人も是隆中納言れ息ありて  
惠ん流る偽朝れ實み也永承七年の秋の  
ちよまうりて喜捨心とてのる安養世男受定

住生の瑞慶とて又親善の若にりて勅  
進聖とてゆりて他洞の所なり養をまへ白  
川法皇勅して一乃は面乃堂又一院とて造営  
ありてえをせの安養院とて異し生匠禁  
足して保安元年九月十五日高声念佛して西  
よむとてゆき八十九  
藤井坊 二のたまき  
永享年中十一月月中旬の比南朝成就院法橋  
法賢とてあひきり長谷寺より一七日奉新せし  
は藤井坊とて小坊とて法宗寺なり  
長谷寺佛前卒首  
夕時ありやゆきが下病も未てありおほ山底 五徹

通羽上人廟  
驗記曰今乃二王堂の内あり



泊瀬朝倉宮

帝王編年云城上郡磐石坂谷あり  
世より長谷より道ぐらあり  
人皇廿一代安原天皇三年泊瀬朝倉宮  
延寶七年延凡一千二百廿九年

泊瀬列城宮

帝王編年日城上郡長谷より  
十町よりあり南にお雲村長たより  
人皇廿六代武烈天皇元年泊瀬列城宮  
延寶七年延凡一千八百八十一年  
泊瀬奇宮 西志

天武天皇白鳳二年正月大津會女と天照  
右神よりなれ泊瀬列城宮といひて同三  
年十月は伊勢乃神宮にまゝて侍り  
延寶七年延凡一千八百八十一年

迹駁馬洲

天武天皇白鳳八年八月泊瀬より行幸あり  
て迹駁馬洲上ありて方あり侍り  
日本紀

泊瀬小野

雄略天皇六年二月泊瀬の小野より行幸  
ありて山形よりけしきとめて侍り  
日本紀  
泊瀬の山より侍り  
後ら侍り  
あやら侍り



この市初家あり道乃小野ともいひけり

伊豆加志本

当世俗よりむり天照太神としてせ給ひしを居乃給として長谷の所乃らちれ南民屋の内に礎二のありありあり儀城寄しす里坤よ為のこ所伊豆毛村八十所なりわ埔あり伊豆加志本の有る乃給よ付ありんり

人會十代崇神天皇は十三年天照太神を國伊豆加志本のまへに作り給ひて八年にいはりりるる倭姫世紀磯城嚴檀之本葛木宝山記わきりり

狭井神社

三輪の社二所なり此はあり當世結果

平城上郡鎮花乃社これなり

狭井社の大己貴荒魂也花乃の所疫神分敷ありてわきりりり人民をよづはめぬるれ鎮花系あり字多天皇寛平九年三月七日勅してよらり信よらり旧記延喜式は狭井坐大神荒魂社五座

竹立山

層楯系に大和國中しと

竹林寺

笠山より有り信よ是れ荒神といふ勢守峰山竹林ちいじり役小角行ひるなり



靈山より吾を畏三蔵本朝の付天竺より  
 うれ中流まで天竺より来る天人所造の靈を  
 將來ありとけい山より修し丁せありしなり山  
 乃名あわりの靈靈實として古世よりあり  
 一荒神を良奇信正系勢の付荒神現形  
 給小傷正小板より漏せしきき後弘法大原の  
 冨乃像とてうつと荒神とてまゝ居りしなり  
 ちういけ寺にうつと居りし神大和國靈山の荒神  
 も三座ありて古祖神一座眞律彦命一座  
 眞律姫神一座舊事紀曰古事神天和加流  
 義豆姫と書しうらめしき眞律彦命と書し  
 娘命此二神に法人電神と祠を有る神也

城上郡神名帳三十五座 延喜式

- |             |          |
|-------------|----------|
| 大神大物主神社     | 神坐日向神社   |
| 穴師坐兵主神社     | 卷向坐若御龜神社 |
| 他田坐天照御龜神社   | 志貴御縣坐神社  |
| 狹井坐大神荒魂神社五座 | 忍坂坐生根神社  |
| 長谷山口坐神社     | 等弥神社     |
| 殖粟神社        | 忍坂山口坐神社  |
| 氷口神社        | 桑内神社     |
| 桑田神社        | 宇太依田神社   |
| 玉烈神社        | 伊射奈岐神社   |
| 網越神社        | 給代神社     |
| 穴師大兵主神社     | 君櫻神社     |
| 堀倉神社        | 高屋安倍神社三座 |
| 宗像神社三座      |          |



和  
卷三

三十一

和列舊函考第十三卷終



